

ちいさな  
あいらび  
ももの  
は  
み  
な  
な  
う  
つ  
く  
し

uehara  
collection



安井曾太郎《庭の雪》1937(昭和12)年



《高野大師行状図画断簡》(鎌倉～南北朝時代)

新収蔵  
初公開

2025年 会期中無休

1月25日 | 土 |

→ 4月13日 | 日 |

開館時間 午前9時30分—午後4時30分(入館は午後4時まで)  
入館料 大人1,000円/学生500円/高校生以下無料  
\*仏教館・近代館の共通券です \*団体10名以上は10%割引

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館  
Uehara Museum of Art

uehara  
collection

新収蔵  
初公開

あわい  
ひかり  
やわらかな  
いろ

2025年 会期中無休

1/25 | 土 |  
→ 4/13 | 日 |

開館時間 午前9時30分—午後4時30分  
(入館は午後4時まで)  
入館料 大人1,000円/学生500円/  
高校生以下無料  
\*仏教館・近代館の共通券です  
\*団体10名以上は10%割引

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館  
Uehara Museum of Art



# あわい ひかり やわらかな いろ

上原コレクションの特徴は、個人コレクション特有のやさしさ、穏やかさにあります。見ていてほっとするそれらの絵は、生活をやさしく彩ります。今回のコレクション名品選では、新たに収集した安井曾太郎《庭の雪》を中心に、あわい光とやわらかな色彩による絵画をご紹介します。

安井曾太郎《庭の雪》は、木々の間に冬の気配が広がる風景画です。あわい光は木々や地面に積もった雪に反射して、画面全体を穏やかに照らし出します。雪に落ちる影は、緑がかった灰色、ピンクがかった灰色など、やわらかな色彩によって複雑なニュアンスを生み出しています。緑や黄土色などの中間色はわずかに置かれた黒と対比されることで、雪の白を息づかせています。枝の間から空を見上げると、滲むような光が広がり、静かな画面に冬の冷たい空気が満ちるかのようです。安井が本作を描いたのは、フランスから帰国後の長いスランプを経て自らの様式を生み出した時代でした。色彩を並べ置いて空間を生み出すその構成はセザンヌを想起させますが、あわい光とやわらかな色彩には安井独自のリアリズムを感じさせます。

本展ではそのほか、都市の喧騒をやわらかな中間色で描き出すアルペール・マルケ《冬のパリ(ポン・ヌフ)》、川面にあたる光のニュアンスを色彩で捉えたクロード・モネ《ジヴェルニー付近のセヌ川》、にぶい光の中に紅白の花が浮かび上がる須田国太郎《牡丹》など、あわい光とやわらかな色彩による絵画をご紹介します。穏やかでやさしい上原コレクションの魅力をどうぞお楽しみください。



アルペール・マルケ《冬のパリ(ポン・ヌフ)》1947年頃



クロード・モネ《ジヴェルニー付近のセヌ川》1894年



須田国太郎《牡丹》1941(昭和16)年



梅原龍三郎《朝暉》1937(昭和12)年



アンリ・マティス《エトルタ断崖》1920年



ピエール・ボナール《ノルマンディー風景》1925年

### 学芸員による作品解説

日時：会期中の第3土曜日  
10時～(近代館) / 11時～(仏教館)  
※所要約60分

会場：上原美術館展示室  
参加方法：当日、展示室にお集まりください  
※予約不要・ご参加には入館券が必要です

# ちいさき もの は みも な う み つ く し

誕生仏 鎌倉時代 ※新収蔵初公開



一字宝塔法華経断面(心西願経)部分 長寛元(一一六三年)



弘法大師の生涯を描いた絵巻物の断簡。ふつくとした体にすつと天地を指す誕生仏。塔の中にみほとけの言葉が書かれたお経の一部。小さいながらも、大切に伝えられてきた作品は今も数多く遺されています。本展では、新収蔵・初公開となる《高野大師行状図画断簡》(紙本着色・鎌倉(南北朝時代)を中心に、上原コレクションから小さくも愛らしい仏教美術をご紹介します。

《高野大師行状図画断簡》は、真言宗の祖、弘法大師空海の生涯を伝える絵巻物の一部分です。二人の対面する僧侶が描かれた本作は、中国・唐に留学中の空海のエピソードが描かれています。留学した空海は、当時、密教の第一人者であり、多くの弟子を持つ恵果阿闍梨に師事しました。ある時、恵果の弟子、珍賀が空海を誹謗しました。しかしその夜、珍賀の夢に四天王が現れ、空海を誹謗したことを責めたため、翌朝、慌てて謝罪をしました。画面には建物の中に座す空海、庭でひれ伏し謝る珍賀の姿が描かれています。切り取られた絵巻物の一片にはゆたかな物語が広がっています。

《誕生仏》(銅造 鎌倉時代)も本展で初公開となる作品です。釈迦が生まれた姿をうつつとした誕生仏は、ふつくとした小さな体で天地を指さしています。20cmに満たない大きさの像ですが、微笑する口からは今にも「天上天下唯我独尊」と言葉が発しそうです。

本展では、《一字宝塔法華経》(長寛元(一一六三年)や《大日如来像》(文永七(一一七〇)年)などを小さいながら愛らしい作品を展示いたします。手元にと置いて、対面しなくなるような仏教美術の数々をお楽しみください。



善財童子絵断簡 南北朝時代



大日如来像 文永七(一一七〇)年 行願作



- お車で 新東名高速道路 長泉沼津ICより 下田方面へ 1時間30分
- 鉄道・ 東京駅より特急踊り子号 2時間40分 伊豆急下田駅下車 同駅より堂ヶ島方面行バス 20分 相玉下車 徒歩15分
- バスで

東洋と西洋の美の出会い

上原美術館  
Uehara Museum of Art

〒413-0715 静岡県下田市宇土金341  
Tel. 0558-28-1228 www.uehara-museum.or.jp